



## トップメッセージ

### 「味ひとすじ」の精神で築く 持続可能な未来

永谷園グループの企業理念は、「味ひとすじ」です。

「味ひとすじ」は、永谷園の創業者である永谷嘉男の「お茶づけに一生を捧げる」という想いを言語化したものです。

当社グループは、「味ひとすじ」の精神のもと、創意と工夫でお客さまに喜んでいただける商品をお届けしてまいりました。現在では家庭用食品事業、業務用食品事業、中食事業、海外事業など様々な事業を展開しております。

私たちが目指すのは「世界になくてはならない会社」です。不安定な世界情勢、原材料価格の高騰等により厳しい経営環境が続いておりますが、永谷園ブランドとグループの経営資源を最大限に発揮し、国内外含めた世界レベルでの新たなグループシナジーを創出しながら、事業拡大に努めてまいります。

今、世界は気候変動による異常気象、生物多様性の喪失、水資源の枯渇、食糧不足、そして人権問題など、多くの課題に直面しています。これらの課題への

対応も企業の重要な社会的責任と位置づけ、グループ全体で商品開発から製造、販売、消費に至るバリューチェーン全体において、環境負荷の低減、人権尊重、働きがいのある職場づくりなど、様々な取り組みを通じて持続可能な未来の実現に貢献してまいります。

### サステナビリティ経営の推進

永谷園グループでは、「サステナビリティ方針」を策定し、「サステナビリティ委員会」を設置するなど、グループ全体でサステナビリティ経営を推進する体制を整備しています。

同委員会では、サステナビリティに関する重要課題と、それらに対する対応方針・指標・目標を設定し、これらの目標の達成に向けて、商品の開発から製造、販売、消費に至るバリューチェーン全体で、環境負荷の低減や人権尊重、働きがいのある職場づくりなど、様々な取り組みを推進しています。



株式会社永谷園ホールディングス  
代表取締役会長 CEO

永谷 泰次郎

## 企業理念

当社グループは、創業の精神である「味ひとすじ」を企業理念とし、すべてのお客さまに信頼され、ご満足していただける安全・安心な商品・サービスを提供することを経営の基本方針としています。この基本方針に沿った事業展開により、お客さまから愛され、信頼される永谷園ブランドの形成に努めています。

「味ひとすじ」は永谷園の企業理念です。

企業理念とはその会社の基本的な考え方・信念・価値観のことです。お客さまに思いを馳せ、私たちにできることを考え抜く。その志なくして「味ひとすじ」はあり得ません。

「味ひとすじ」とは、

1. 今までにない
2. お客さまに「なるほどおいしい」と感じてもらえる
3. 他社にマネができない

そういう商品を出し続けるという「決意」なのです。



筆／永谷嘉男（永谷園 創業者）

### 編集方針

当サステナビリティレポートは、当社グループのサステナビリティに対する考え方や取り組みを報告しています。

当社グループを支えてくださる皆さま（お客さま、お取引先さま、地域住民の皆さま、およびグループ従業員）に分かりやすくお伝えすることで、より一層の理解を深めていただき、さらなる価値向上につなげることを目的としています。

- 報告対象期間 2025年4月～2026年3月 ※一部、当該期間外における取り組みが含まれています。
- 発行年月 2026年8月
- 次回発行予定 2027年7月
- 報告対象組織 本報告書は、永谷園グループを報告対象としています。なお、本文中に記載している企業名は法人格を省略しています。また、永谷園ホールディングスと永谷園の共通の取り組みは、まとめて「永谷園」として報告しています。
- 環境パフォーマンス対象組織 (株)永谷園ホールディングス、(株)永谷園、(株)永谷園フーズ、(株)サニーフーズ、藤原製麺(株)、(株)DAY TO LIFE※ ※製造拠点のみ

### 表紙：パラリンアート作品

作品名 芽吹く

作家 工房はんど アキ

#### 作品テーマ

幹から瑞々しい芽が出てきている  
生命の強さが描かれた作品

#### ● パラリンアートとは ●

一般社団法人障がい者自立推進機構が運営する「パラリンアート」とは、障がい者の芸術表現を通じ、社会参加と経済的自立を推進する活動です。



障がい者アートを応援しています

## CONTENTS

トップメッセージ ..... 1

### カンパニーインフォメーション

企業理念／目次／編集方針 ..... 2

会社概要 ..... 3

サステナブル経営の推進 ..... 4

バリューチェーンにおけるSDGsマッピング ..... 5

### 環境

マテリアリティ ..... 6

環境基本方針 ..... 7

TCFD提言への取り組み ..... 8

環境データ ..... 9

食品ロス削減 ..... 10

環境配慮商品、物流の取り組み ..... 11

環境への取り組み ..... 12

### 社会

品質保証システム「NAFSAS」 ..... 14

食品安全 ..... 15

多様なニーズに対応した商品開発 ..... 17

お客さまとのかわり ..... 18

人権の尊重 ..... 19

人権方針 ..... 20

人材戦略 ..... 21

エンゲージメント ..... 22

健康経営 ..... 23

地域社会との取り組み ..... 24

次世代育成への取り組み ..... 26

### ガバナンス

コーポレート・ガバナンス ..... 28

# 会社概要

当社グループは、永谷園ホールディングスを持株会社とする持株会社体制の下、家庭用食品事業、業務用食品事業、中食事業、海外事業等を展開しています。

商 号 株式会社永谷園ホールディングス  
創 立 1953年4月  
資 本 金 3億500円  
従 業 員 数 【連結】2,619名(2026年3月末現在)  
代 表 者 代表取締役会長 CEO 永谷 泰次郎  
本社所在地 〒105-8448 東京都港区西新橋二丁目38番5号

## グループ会社 (2026年3月末現在)

### 国内食料品事業

#### ■ 株式会社永谷園

お茶づけ、ふりかけ、即席みそ汁など幅広い加工食品を製造・販売。

#### ■ 株式会社永谷園フーズ

「お茶づけ海苔」「おとなのふりかけ」「あさげ」「麻婆春雨」「すし太郎」など永谷園の主力商品を生産。フリーズドライ、レトルトをはじめ幅広い生産設備を保有。

生産拠点は、酒田工場(山形県)、サンフレックス工場(福島県)、高萩工場(茨城県)、船橋工場(千葉県)、松本工場(長野県)、オクトス工場(三重県)、岡山工場(岡山県)、岡山御津工場(岡山県)の8カ所。

#### ■ 株式会社サニーフーズ

主に企業向けの食品原料(エキスパウダー、顆粒品、健康食品原料)を製造・販売。  
生産拠点は、栃木工場(栃木県)。

#### ■ 藤原製麺株式会社

ラーメン、そば、うどん、そうめんなど麺類全般(常温・チルド)を製造・販売。

#### ■ 株式会社喜多方らーめん本舗

生麺の製造卸販売。

### 海外食料品事業

#### ■ Chaucer Group

- Chaucer Foods Limited
  - Chaucer Foods SAS
  - Chaucer Foods Inc.
  - Chaucer Foods (Qingdao) Co. Limited ほか
- フルーツなどのフリーズドライ食品、パン製品の製造・販売。

#### ■ Main On Foods Group

- Main On Foods, Corp.
  - JSL Foods Inc.
- 焼きそば、うどんなどの麺類をはじめ、春巻や餃子の皮などの製造・販売。

### 中食その他事業

#### ■ 株式会社DAY TO LIFEホールディングス

- 株式会社DAY TO LIFE
- 「ビアーdpapaのつくりたて工房」「ココフラン」などのスイーツ事業、飲食店の経営。
- MUGINOHO GLOBAL PTE. LTD.
  - 日樂芙台灣股份有限公司(DTL Taiwan CO., LTD.)
  - Muginoho International, Inc.
- 北米において、「Beard Papa's」のスイーツ事業を運営。

## グループ会社／本社拠点



### 国内

- ① 永谷園ホールディングス ② 永谷園 ③ 永谷園フーズ ④ サニーフーズ ⑤ 藤原製麺
- ⑥ DAY TO LIFEホールディングス ⑦ DAY TO LIFE
- ⑧ 喜多方らーめん本舗

### 海外

- ⑨ Chaucer Foods (Qingdao) Co. Limited (中国)
- ⑩ 日樂芙台灣股份有限公司(DTL Taiwan CO., LTD.) (台湾)
- ⑪ MUGINOHO GLOBAL PTE. LTD. (シンガポール)
- ⑫ Chaucer Foods Inc. (米国) ⑬ Main On Foods, Corp. (米国)
- ⑭ JSL Foods Inc. (米国) ⑮ Muginoho International, Inc. (米国)
- ⑯ Chaucer Foods Limited (英国) ⑰ Chaucer Foods SAS (フランス)

## サステナブル経営の推進

当社グループは、持続可能な社会の実現に向けた取組みを、グループ全体で強化することを目的として、「永谷園グループサステナビリティ方針」を策定し、サステナビリティ推進体制を構築しています。

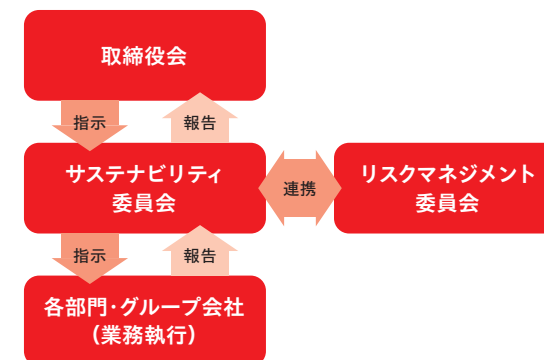
「食を通じて幸せで豊かな社会づくり」に貢献するため、サステナビリティ委員会を中心に、社会や環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題の解決に、ESG視点で取組み、持続可能な社会の実現と、当社グループの持続的成長の実現を目指します。

### サステナビリティ方針

「味ひとすじ」の想いを常に抱き、  
オリジナリティの精神  
おいしさを提供し続ける決意  
お客さまに寄り添い、思いやる気持ちを持ち、  
様々な社会の課題に対して、  
食を通じた活動を通して取組みます。  
そして持続可能な「幸せで豊かな社会」づくりに  
貢献してまいります。

### 推進体制

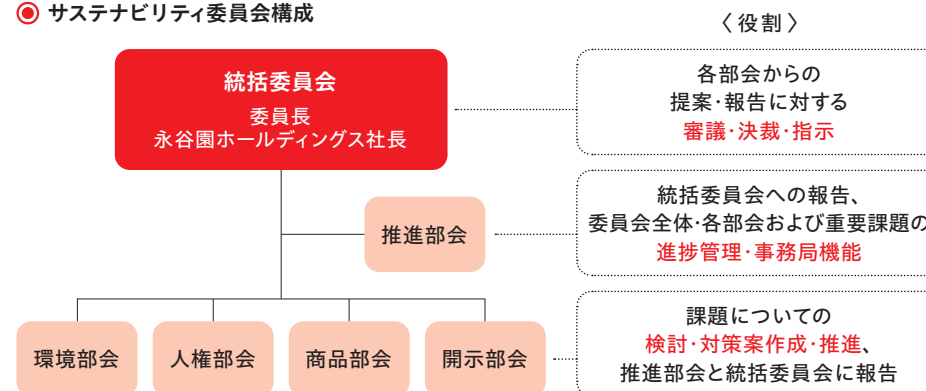
サステナビリティ委員会は、永谷園ホールディングス社長を委員長として、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定、および取組みを推進しています。同委員会は、取締役会への活動報告、リスクマネジメント委員会との連携等を担い、経営基盤の強化を進めます。



### サステナビリティ委員会

サステナビリティ委員会は、取組む項目別に4つの部会「環境部会」「人権部会」「商品部会」「開示部会」と、サステナビリティ委員会全体の運営管理を行う「推進部会」、これらの各部会からの方針・目標・取組み内容の提案を受け、審議・決議する「統括委員会」からなり、課題に対して対応する体制を構築しています。

#### ◎ サステナビリティ委員会構成



## バリューチェーンにおけるSDGsマッピング

当社グループでは、企業理念の「味ひとすじ」のもと、「幸せで豊かな社会」の実現に向けて、私たちにできることを考え取組むことで、持続的な成長を目指しています。

その基盤となる商品開発から原料や資材の調達、生産、物流、販売、お客さまが使用

されるまでのバリューチェーン全体を、「創る」「作る」「売る」「使う」という工程に分け、様々な社会課題の解決に向けた取組みを行っています。

この取組みを通じて、お客さまから信頼される企業を目指していきます。

### ◎ バリューチェーンの流れとSDGs

|    | 課題・期待           | 取組み                                          | 関連するSDGs<br>正の影響の強化                                                        | 関連するSDGs<br>負の影響の最小化                            |
|----|-----------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 創る | おいしさ・品質の追求      | ● 「味ひとすじ」の具現化                                | 2 気候変動<br>3 健全な食生活<br>9 産業と資源効率の向上                                         |                                                 |
|    | 多彩なニーズに対応した商品開発 | ● 食物アレルギー配慮商品<br>● 健康ニーズにマッチした商品<br>● 災害備蓄商品 |                                                                            | 13 気候変動に由来する健康被害の軽減                             |
|    | 食品ロス削減          | ● 賞味期間延長                                     | 12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来                                                   |                                                 |
|    | 環境負荷低減          | ● 包装のコンパクト化による廃棄物の削減                         |                                                                            |                                                 |
| 作る | 環境に配慮した調達       | ● 持続可能な資源利用に配慮した原料の活用<br>● バイオマス原料の使用        | 9 産業と資源効率の向上<br>12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来<br>13 気候変動に由来する健康被害の軽減            |                                                 |
|    | 食の安全・安心         | ● 品質保証システムNAFSAS                             |                                                                            |                                                 |
|    | 環境負荷低減          | ● 工程・設備の改善<br>● 再生可能エネルギーの導入<br>● 水使用量の削減    | 2 気候変動<br>5 ジェンダー平等<br>7 持続可能なエネルギー<br>8 豊かになる<br>12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来 | 6 水と海洋資源                                        |
|    | 廃棄物の削減          | ● 食品廃棄物の削減<br>● 動植物性残渣の飼料化・肥料化               | 7 持続可能なエネルギー<br>8 豊かになる<br>9 産業と資源効率の向上<br>12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来        | 12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来<br>13 気候変動に由来する健康被害の軽減 |
|    | 労働安全衛生の追求       | ● 作業環境の改善、ヘルスチェックの実施                         |                                                                            |                                                 |

|      | 課題・期待          | 取組み                                           | 関連するSDGs<br>正の影響の強化                                                 | 関連するSDGs<br>負の影響の最小化                |
|------|----------------|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 売る   | 環境負荷軽減         | ● モーダルシフトの推進<br>● 流通網の整備・再編<br>● 積載効率向上への取組み  | 7 持続可能なエネルギー<br>8 豊かになる<br>9 産業と資源効率の向上                             | 7 持続可能なエネルギー<br>13 気候変動に由来する健康被害の軽減 |
|      | 商品の安定供給        | ● 在庫待機時間の削減                                   |                                                                     |                                     |
| 使う   | 食品ロスの削減        | ● 需要予測の精度向上による流通在庫減・欠品防止<br>● 賞味期限の年月表示（一部商品） | 7 持続可能なエネルギー<br>12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来<br>13 気候変動に由来する健康被害の軽減     | 3 健全な食生活                            |
|      | 省エネルギー         | ● エコカー・エコドライブの導入                              |                                                                     |                                     |
| お客さま | 商品に関する情報提供     | ● ホームページ・お客様相談室での情報提供                         |                                                                     |                                     |
|      | お客さま視点での商品開発改善 | ● お客さまの声を商品設計に反映                              | 2 気候変動<br>3 健全な食生活<br>11 持続可能な都市とコミュニティ<br>12 つくって使う<br>つぎの世代につぎの未来 |                                     |
|      | 食品ロスへの対応       | ● フードバンクへの寄贈<br>● 災害支援活動                      |                                                                     |                                     |
|      | 廃棄物の削減         | ● 環境配慮包材による廃棄物の削減                             |                                                                     |                                     |

バリューチェーンの各工程における「正の影響」と「負の影響」への貢献を特定しました。

## マテリアリティ

当社グループでは、SDGsや様々な国際基準、食品業界での解決すべき問題などをもとに、取組むべき課題を抽出し、事業活動と社会への影響度について検討した結果、以下の「重要課題」を特定し、課題ごとに「方針」「指標と目標」を設定しました。

「指標と目標」は、サステナビリティの重要課題解決に向けて、関連する取組みテーマについて指標化したものです。地球環境の変化や社会状況を注視しつつ、進捗や実

績を把握しながら、目標を設定していきます。

サステナビリティの重要課題は、持続可能な社会の実現への貢献と、永谷園グループの持続的な成長の双方にとって重要と考えています。社会・地球環境変化に応じて、定期的に重要課題の見直しを行います。

| 重要課題           | 方針                                                                                                                                                                                                                                                 | 主な実施項目                                                                                                   | 指標                                  | 目標（2030年度）      | 対象                                            | 対応するSDGs                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 食の<br>安全安心     | <ul style="list-style-type: none"><li>●お客さまに安心して召し上がっていただけるよう、独自の品質保証システム「NAFSAS（ナフサス）※」により、安全安心な商品づくりを徹底いたします。</li><li>●食物アレルギーを持つなど、食事に選択肢が必要な方に、安心して召し上がっていただける商品の開発・徹底した製造・品質管理、社会への理解の啓蒙活動などを積極的に実施します。</li><li>●防災食の開発に積極的に取り組みます。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>●NAFSASの管理</li><li>●食物アレルギー対応</li><li>●災害備蓄品の開発・販売</li></ul>       | 方針に沿った内容が維持されている状態                  |                 | 永谷園ホールディングス<br>永谷園<br>永谷園フーズ                  |            |
| 気候変動<br>への対応   | <ul style="list-style-type: none"><li>●製造工場や事業所を対象にCO<sub>2</sub>排出量の削減を目指します。</li><li>●環境に配慮した商品開発を推進していきます。</li></ul>                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>●CO<sub>2</sub>排出量削減</li><li>●環境配慮資材使用</li><li>●TCFDへの対応</li></ul> | CO <sub>2</sub> 排出量削減               | (2018年度比) 30%削減 | 永谷園ホールディングス<br>永谷園<br>永谷園フーズ<br>国内グループ会社の製造工場 |      |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                          | 水使用量削減                              | (2018年度比) 30%削減 |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 資源循環・<br>廃棄物削減 | <ul style="list-style-type: none"><li>●廃棄物削減のため、廃棄物自体の排出削減と再資源化を進めていきます。</li></ul>                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>●廃棄物排出量削減</li><li>●再資源化率アップ</li></ul>                              | 廃棄物量削減                              | (2018年度比) 20%削減 |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                          | 再資源化率                               | 95%             |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 持続可能な<br>調達    | <ul style="list-style-type: none"><li>●安全性はもとより、環境や人権への影響に配慮した安定調達をお取引先さまと協働して進めていきます。</li></ul>                                                                                                                                                   | <ul style="list-style-type: none"><li>●調達方針策定、実践</li></ul>                                               | 策定した「調達方針」がお取引先さまに共有され、遵守されている状態の継続 |                 |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 人権への<br>対応     | <ul style="list-style-type: none"><li>●当社グループにかかわるすべての人の人権を尊重します。持続的成長を実現する体質への転換に向け、学びの場の拡大、「組織全体」で育む環境づくりなどを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図り、多様な人材が活躍できる仕組みづくりを進めていきます。また、従業員が健康でやりがいを持って働けるよう、環境整備に取り組んでいます。</li></ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>●人的資本への対応</li><li>●人権方針策定、実践</li></ul>                             | 女性管理職比率                             | 15%             | 永谷園ホールディングス<br>永谷園                            |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                          | 男性の育児休業取得率                          | 50%以上           |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                |                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                          | 女性の育児休業取得率                          | 100%            |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

※NAFSAS（ナフサス）：永谷園味ひとすじ食品安全保証システム（Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System）の頭文字をとったもの。

# 環境基本方針

当社グループは、全従業員が環境の課題に対して積極的に取組む指針として「環境基本方針」を策定しています。  
省エネルギー、省資源、およびリサイクルの取組みを推進することで、企業活動から生じる環境負荷の低減および循環型社会への貢献を目指しています。

## 永谷園グループ 環境基本方針

### 環境理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、お客さまに満足していただける商品・サービスを提供するとともに、社会の一員として地球環境保全の大切さを理解し、環境に配慮した企業活動に取組み、幸せて豊かな社会づくりに貢献します。

### 行動指針

- 1 環境に関する法令などの遵守はもとより、環境保全を推進していくための体制を構築し、地球環境への負荷軽減に継続的に取組みます。
- 2 環境保全に配慮した開発・生産に取組み、「環境に負荷の少ない商品・サービス」を社会に提供します。
- 3 廃棄物の削減、リサイクルの推進および省資源・省エネルギーに努め、目標を掲げ「環境問題へ真剣に取り組む事業所」を目指します。
- 4 社員一人ひとりが前向きに環境問題を考え、「環境問題へ真剣に取り組む社員」としての誇りを持ちます。

行動指針は、「企業行動指針」の一つに制定され、当社グループの企業倫理に関する基本方針として社内に周知されています。

### ● 環境保全活動推進体制

当社グループでは、環境保全活動を推進する体制として、サステナビリティ委員会に環境部会を設置しています。環境部会では、持続可能な社会の実現に向けた環境目標や施策の策定を行い、環境保全活動の推進に努めています。

### ● 環境マネジメントシステムの維持・向上

永谷園フーズの生産拠点では、環境保全活動を継続的に実施していくために、ISO14001に準拠した独自の「永谷園グループ環境マネジメントシステム (EMS)」を運用し、PDCAを回して維持・向上に取り組んでいます。同システムは、「永谷園グループ環境マネジメントマニュアル」を基本とし、各拠点のエコスタッフを中心に、目標やルール策定をして省エネルギー、廃棄物の削減などの環境保全活動を推進し、緊急事態の特定、対応方法の検討および訓練を実施して環境リスクの低減を図っています。

Chaucer Groupでは、ISO50001を取得し、組織のエネルギーパフォーマンスを可視化して、改善活動につなげる取組みを行っています。製造現場における設備の起動・停止の管理による節電、ブレッド事業のパン焼き機への環境に配慮した燃料の採用など、工場におけるガス・水・廃棄物の使用および排出量の低減に取り組んでいます。

### ● 内部環境監査

永谷園フーズの生産拠点では、環境マネジメントシステムの継続的改善のために、毎年、内部環境監査を実施しています。

内部環境監査は、各拠点のエコスタッフが監査員となり、環境マネジメントマニュアルの要求事項にもとづいて、適合性と有効性を確認するとともに、環境関連ルールの遵守状況や、環境目標の達成度を確認しています。

拠点間でのクロス監査方法のため、監査する側、される側の両方が意見交換できることで、よりよい改善につながる機会となっています。



## TCFD提言への取組み

当社グループの事業は、自然の恵みに依存しています。気候変動は、原材料となる水産資源の収量の減少や、品質劣化などに大きく影響します。今後の気候変動による影響は、事業の継続につながる経営リスクとしてとらえ、対応すると同時に新たな機会も見いだしながら、今後の事業戦略へ活かしていきます。情報公開に関しては、TCFD提言の枠組みに沿った内容で開示していきます。

### TCFD提言にもとづく4項目の取組み

#### ガバナンス

社会課題の解決と企業としての持続的成長を目指し、サステナビリティに取組むガバナンス体制として、グループ横断型組織「サステナビリティ委員会」を設置しています。

サステナビリティ委員会には、取組む項目別に部会を編成しています。特に気候変動については、「環境部会」が中心となり、方針・目標・取組み内容を立案して推進と管理を行い、その取組み状況は、「開示部会」が中心となってホームページへの開示を行っています。

サステナビリティ委員会の活動は、定期的に取り締役会に報告し、リスクマネジメント委員会と連携しながら、経営基盤の強化を進めています。

#### 戦略

気候変動に伴う様々なリスクと機会について、外部環境の変化による緊急度と重要度の面から分析・評価を行い、気候上昇レベルにあわせたシナリオを想定して、リスクと機会の対応策を検討し、計画的に取組んでいます。

#### リスク管理

企業活動全体のリスク管理においては、リスクマネジメント委員会でモニタリングをしており、特に経営への影響が大きく、対応の強化が必要なリスクは、重要項目として取り上げ、リスクマネジメント委員会で進捗管理をしています。

また、サステナビリティに関するリスクについては、サステナビリティ委員会が重要課題として設定しているため、該当部会である「推進部会」が中心となって、進捗管理を行っています。

#### 指標と目標

気候変動によるリスクと機会を測定・管理するために用いている指標は、以下のとおりです。対象は、国内グループ製造拠点（Scope1、Scope2）、2024年度を基準年とした売上高あたりの原単位の削減率です。

| 指標                              | 2025年度実績                     | 2030年度目標 |
|---------------------------------|------------------------------|----------|
| CO <sub>2</sub> 排出量削減率（2018年度比） | 40%（18.9千t-CO <sub>2</sub> ） | 30%      |

### ◎ 気候変動リスクの影響評価

| 大分類 | 小分類    | リスク要因                     | 事業への影響                     | 時間軸   | 影響度 | 対応策                              |
|-----|--------|---------------------------|----------------------------|-------|-----|----------------------------------|
| 移行  | 政策・法規制 | 炭素税の導入                    | 利益の圧迫、原材料の高騰               | 中期    | 大   | 再生可能エネルギーの導入、太陽光発電の導入、モーダルシフトの推進 |
| 移行  | 政策・法規制 | CO <sub>2</sub> 排出量に関する規制 | 再生可能エネルギー使用等強化によるコストアップ    | 短期～中期 | 中   | LED照明の導入、太陽光発電の導入                |
| 移行  | 政策・法規制 | 包装資材に関する規制                | コストアップ、店頭からの強制撤退           | 中期    | 中   | プラから紙へ材質変更、商品サイズの縮小化             |
| 移行  | 市場     | 消費者の購買行動変化                | 環境負荷を考慮した商品への購買行動          | 中期    | 大   | 調理時エネルギーの少ない商品の開発                |
| 物理  | 急性     | 台風・洪水などによる操業ダメージ          | 工場等事業所・原料資材メーカー・物流などの機能停止  | 短期    | 大   | BCP対策の強化と情報共有                    |
| 物理  | 急性     | 世界的な異常気象の激甚化              | 異常気象の頻発で被害を受ける原材料が拡大、調達に影響 | 短期    | 大   |                                  |
| 物理  | 慢性     | 酷暑の長期化・暖冬による商品ラインアップ変化    | 包装品質改良、参入カテゴリー見直し          | 短期～中期 | 大   | 夏向け商品の開発                         |
| 物理  | 慢性     | 倉庫輸送での高温による品質劣化           | 品質維持のためのコストアップ             | 短期～中期 | 大   | 倉庫保管のルールや入庫タイミングの最適化             |

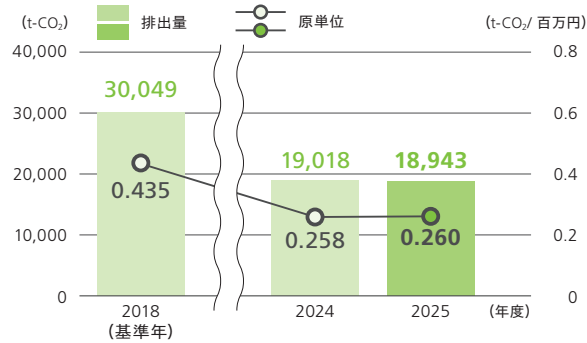
## 環境データ

**2025年度結果** | 当社グループでは環境負荷の低減に取り組むために、環境パフォーマンスデータの把握を行っています。

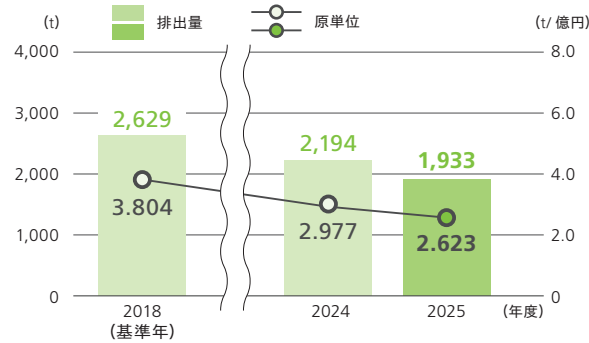
| 実施項目    | 具体的取組み                | 2025年度実績(2024年度対比) |
|---------|-----------------------|--------------------|
| 地球温暖化防止 | CO <sub>2</sub> 排出量削減 | 0.8%の増加            |
| 廃棄物削減   | 排出量削減                 | 12%の削減             |
|         | 再資源化率向上               | 5.9ポイント増加          |
|         | 食品リサイクル率向上            | 6.3ポイント増加          |
| 省資源     | 水使用量削減                | 13%削減              |
|         | OA紙使用枚数削減             | 39%削減              |

- CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数の実績は、2025年度を基準年とした売上高(OA紙使用枚数は従業員1人)あたりの原単位の削減率です。
- CO<sub>2</sub>排出量は、国内グループ製造拠点のScope1+Scope2の値です。
- 食品リサイクル率は、食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率です。
- 2018年度のOA紙使用枚数は、藤原製麺とDAY TO LIFEの実績は含まれていません。

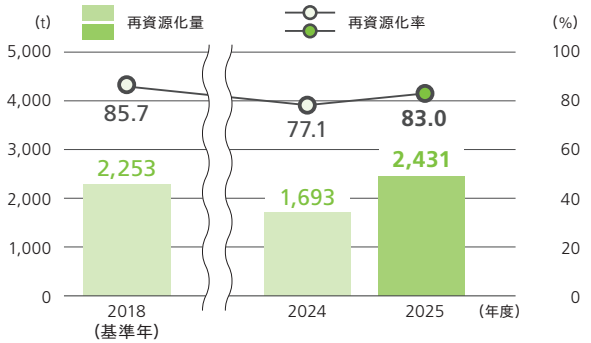
### CO<sub>2</sub> 排出量



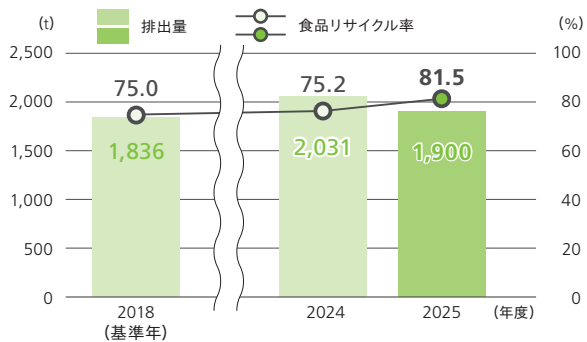
### 廃棄物排出量



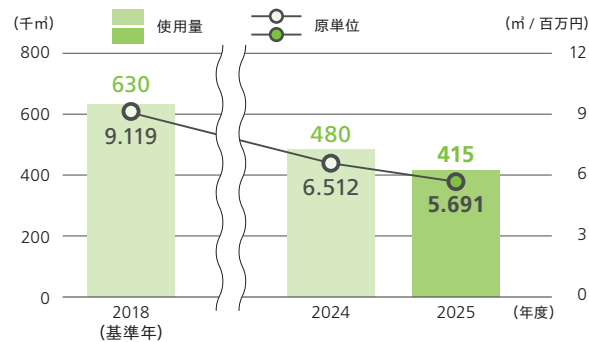
### 再資源化量



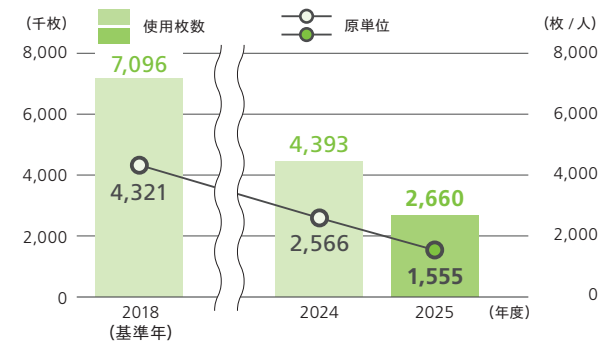
### 食品廃棄物排出量



### 水使用量



### OA 紙使用枚数



## 食品ロス削減

当社グループは、環境負荷低減のために限りある資源の効率的な利用を念頭に、廃棄物の有効活用や食品廃棄物の削減に取り組んでいます。

### 食品ロスの削減の取組み

食品ロスの削減は、食品企業の責任として真摯に取り組むべき課題と考えています。

当社グループでは、安全性や品質を保証できることを確認した商品について、賞味期間延長を行いました。また、市販用商品、業務用商品で賞味期限の表示方法を「年月日」から「年月」への変更を順次進めています。

この取組みにより、サプライチェーン全体での食品ロス削減、物流の効率化など、社会問題解決への貢献を目指します。

#### ● 賞味期間延長

| 永谷園           |                    |
|---------------|--------------------|
| おとなのふりかけ 本かつお | 12ヵ月 ▶ <b>15ヵ月</b> |
| おとなのふりかけ 紅鮭   | 12ヵ月 ▶ <b>18ヵ月</b> |
| 松茸の味 お吸いもの    | 18ヵ月 ▶ <b>24ヵ月</b> |
| 麻婆春雨          | 12ヵ月 ▶ <b>15ヵ月</b> |
| 五目チャーハンの素     | 12ヵ月 ▶ <b>18ヵ月</b> |
| 藤原製麺          |                    |
| 北海道地粉そうめん     | 24ヵ月 ▶ <b>36ヵ月</b> |
| 北海道地粉ひやむぎ     | 18ヵ月 ▶ <b>24ヵ月</b> |



#### ● 賞味期限「年月」表示に変更

| 永谷園                |  |
|--------------------|--|
| 赤だしみそ汁             |  |
| フリーズドライあさげ・ひるげ・ゆうげ |  |
| ホテルニューオータニ         |  |
| ホットケーキミックス バニラタイプ  |  |



#### ● 「3分の1ルール」の見直し

食品の流通において、賞味期限がしっかり確保された商品を店頭に並べるための「3分の1ルール」があります。

「3分の1ルール」は、製造日から賞味期限までの期間を「納品期限」「販売期限」「賞味期限」と、3分の1ずつ均等に定められた商業における習慣です。

これまでは、販売期限までに販売できなかった商品は、卸からメーカーに返品の依頼がありました。「3分の1ルール」は、食品流通業界全体で食品ロス削減の観点から見直しの機運が高まり、当社も需要予測の精度向上や流通とコミュニケーションをとることにより、返品を減らすことで食品ロスの削減に努めています。

#### ● 需要予測の精度向上

##### ■ 永谷園

商品廃棄は、需要予測による生産と販売実績が影響します。需要予測の精度向上に向けて、社内の関連部門と連携し、生産から販売に至る流通過程での商品管理を行い、売上の変化に柔軟に対応できる生産体制の構築に取り組むことで食品ロス削減に努めています。

##### ■ ビアードパバ

ビアードパバのシュークリームは、添加物を限りなく排除していますので、購入された日にお召し上がりいただくようお願いをしています。シュークリームは、当日製造であるため、店舗の売り上げに応じた販売予測を立て、店舗や購買・工場が連携して食品ロス削減に努めています。

#### ● フードバンクへの寄贈

自社で様々な取組みを実施しても、市場に流通できない商品が生じた場合は、食品などを主に福祉施設に無償提供する「フードバンク」へ寄贈することで、食品ロス削減に取り組んでいます。

## 環境配慮商品、物流の取組み

### 環境配慮商品

#### ● バイオマス原料の使用

惣菜の素やふりかけなどの主要商品のパッケージに、バイオマスインキを使用した包材を使用しています。

バイオマスインキは、植物由来原料の活用によるCO<sub>2</sub>排出量削減（カーボンニュートラル）と石油資源の使用料削減ができるため、環境負荷軽減につながります。



▲ バイオマスインキを使用した商品の一例

#### ● プラスチック使用量の削減

DAY TO LIFEのビードパパ店舗では、持ち手付きの紙箱に変更し、お持ち帰り用のビニール袋を減らしたことで、プラスチック使用量を削減しました。



#### ● 環境問題・CO<sub>2</sub>排出量等の適正包装に優れた商品

永谷園の「カップ入りお茶づけ（お茶づけ海苔・さけ茶づけ）」が、公益社団法人 日本包装技術協会が主催する「日本パッケージングコンテスト」で「パッケージデザイン賞」を受賞しました。

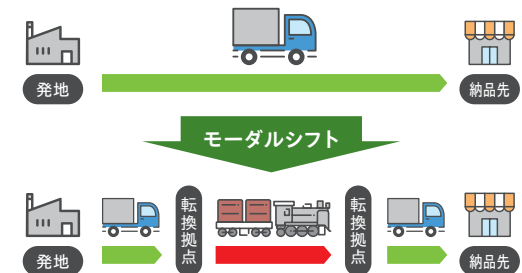


本コンテストでは、デザインからロジスティクス（物流）に至るまでの、包装に関する総合的な機能や環境配慮が評価されます。

### 物流の取組み

#### ● モーダルシフト

永谷園では、商品の輸送手段をトラックから、環境負荷の少ない船舶や鉄道に転換する「モーダルシフト」に取り組んでいます。船舶や鉄道への転換によりCO<sub>2</sub>の削減ができ、道路事情に影響することなく安全で安定した輸送が可能になりました。



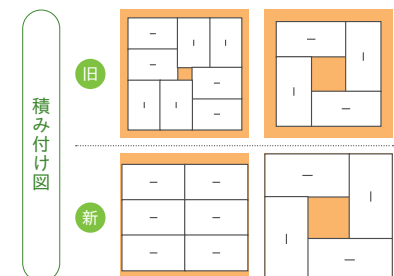
#### ● 輸送ルートの見直し

永谷園フーズ 酒田工場では、永谷園商品に使用する「お麴」を各工場にトラック輸送していましたが、一部の輸送ルートをJRコンテナに切り替えたことで、輸送にかかる人手による作業負担の解消や、安定した輸送の確保ができました。



#### ● 出荷時の荷姿の見直し

永谷園フーズでは、パレットからのみだし防止対応として段ボールサイズと、工場によって異なっていた出荷時の積み上げ荷姿を見直し、統一したことで積載効率を向上することができました。



## 環境への取組み

### CO<sub>2</sub>排出量削減の取組み

「永谷園グループ 環境基本方針」にもとづき、環境負荷の低減および循環社会への貢献に注力することで、「気候変動への対応」「資源循環」「廃棄物削減」「持続可能な調達」の重要課題に、グループ全体で積極的に取り組んでいます。

### 生産工場の取組み

#### ● 再生可能エネルギーの導入

脱炭素社会の実現に貢献するため、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの利用促進に取り組んでいます。

永谷園フーズ 高萩工場では、屋上に太陽光パネルを設置しているほか、トラッキング付・FIT非化石証書等が付与された実質再生可能エネルギーの電力を使用しています。



#### ● ボイラーLNG化

永谷園フーズ サンフレックス工場では、ボイラー※の燃料を、重油から液化天然ガス (LNG) に切り替え、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

※水などの液体を加熱することで蒸気や温水を作る機械

#### ● 間欠運転による電力の削減

永谷園フーズ 岡山御津工場では、排水処理施設のブロワー※の間欠運転を行っています。工場周辺への臭気等の影響を考慮して夜間のみ実施し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

※浄化槽に酸素の供給を行うことで水中の微生物を活性化し、有機物の分解を促進させる装置

#### ● LED照明への切り替え

「長寿命」「省電力」「水銀を含まない」などの理由から、環境にやさしいLED照明に切り替えました。消費電力が少ないことから、環境負荷軽減につながりました。

#### ● 自動運転フォークリフトの導入

永谷園フーズ オクトス工場では、自動運転のフォークリフトを導入しています。自動運転のフォークリフトは、最短ルートでの荷役走行を行うため、バッテリーの消費量抑制につながります。



#### ● J-クレジット※の購入

永谷園フーズ オクトス工場では、三重県松坂市が国の認証を受けた「未来につなぐ森林管理プロジェクト」のJ-クレジットを購入しました。市内の森林管理で得たJ-クレジットを購入することで、CO<sub>2</sub>の排出と吸収が地域で循環する社会の構築を目指します。

※国が認証する温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして取引する制度

## 環境への取組み

### 廃棄物削減の取組み

#### ● 食品廃棄物の削減

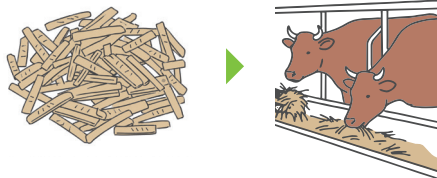
永谷園フーズでは、消滅型生ごみ処理機を導入しています。微生物の力で生ごみが分解され、排水となるため食品廃棄物を削減できます。



当社グループの各工場から排出される食品廃棄物は、肥料や飼料などにリサイクルしています。

#### ■ 永谷園フーズ 酒田工場

お麴の製造工程で生じる動植物性残渣を、畜産農家と契約して和牛飼料に活用し、廃棄物削減と再資源化を推進しています。



#### ■ サニーフーズ 栃木工場

製造工程で生じる動植物性残渣は、近隣農家で肥料として利用されています。

#### ■ 藤原製麺

麺の製造工程で生じる麺の切れ端は、近隣牧場で家畜の飼料に利用されています。

#### ■ JSL Foods Inc. (Main On Foods Group)

食品ロス削減およびエコフィードの取組みとして、カリフォルニア州にある工場では、製麺時に発生した麺の切れ端などを、養豚場へ飼料として提供しています。

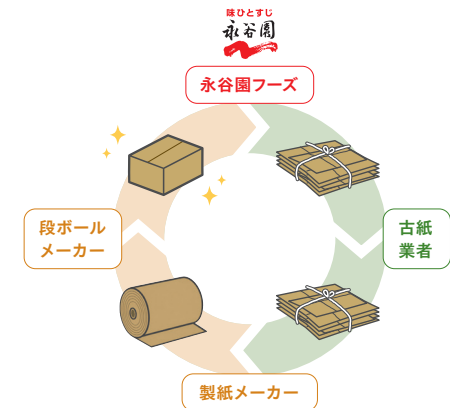
#### ● 水使用量削減の取組み

永谷園フーズ 岡山御津工場では、返送汚泥ポンプからあふれ出た汚泥を放流する設備の設置と、排水処理設備で処理された放流水をタンクに貯めて利用することで、洗浄に使用する水道水の使用量を削減し、効率的な水資源の管理と環境負荷の低減をすることができました。

#### ● 国内循環型クローズドリサイクル

永谷園フーズでは、資源循環システム「国内循環型クローズドリサイクルスキーム」を導入しました。工場から排出される段ボール古紙を、指定の古紙回収業者を通じて、国内の指定製紙メーカーへ納入します。回収された古紙は、段ボール原紙や箱へと再生され、当グループの製品包材として再利用されます。

この取組みにより、自社排出古紙での利用が可能となり、「Reduce (ゴミ削減)」「Reuse (再利用)」「Recycle (再資源化)」の3Rを実現することができます。



#### ● 紙削減の取組み

「i-Reporter<sup>※</sup>」を導入して、作業指示書や点検表を電子化することで、紙の使用量を削減しています。

オフィス部門においては、ホワイトボード、プロジェクター、会議室にモニターを設置するなどしてペーパーレス化を進めています。

※i-Reporter (アイレポーター)

タブレット上で動作し、記入、撮影、報告をタブレット一つで可能にする帳票入力のためのアプリケーション



#### ● Nagatanien Kaizen Award

藤原製麺、サニーフーズ 栃木工場、永谷園フーズ8工場、永谷園 生産本部が、技術交流を行うことによって自工場だけでは改善が困難な課題に、1年を通して改善する活動に取り組んでいます。永谷園グループにおける一体感の醸成につながっており、毎年チーム編成を行い実施しています。

# 品質保証システム「NAFSAS」

## 食品安全への取組み

当社グループでは、「商品・サービスの安全性の確保」を、企業行動指針の1番目に掲げて取組んでおり、独自の品質保証システム「NAFSAS(ナフサス)※1」を構築しています。

常に、世界情勢や食品安全に関する動向を注視し、様々な国際規格のノウハウを取り入れながら、永谷園グループの企業規模や風土に適合させた形へと、整備・運用をしています。

NAFSASでは、商品開発からお客さまに商品をお届けするまでを「品質保証・顧客満足」「食品安全」「危機管理」の3つの柱で構成して、創業当時の「味ひとすじ」の企業理念を念頭に、活動を行っています。

今後もこの「味ひとすじ」を充実させ、「安全・安心」で、「おいしい」商品開発への取組みを続けていきます。

永谷園グループ品質保証システム

# NAFSAS

Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System

お客さまが、安心して商品をお召し上がりいただけるように、  
食の安全と安心を提供し続けます。

品質保証・顧客満足

食品安全

危機管理



## 「NAFSAS」を構成する3つの柱

### 1 | 品質保証・顧客満足 | 永谷園品質マネジメントシステム(ISO9001)

ISO9001のシステムにより、社内の定期監査や、外部機関の審査による、効果的な運用の確認、管理体制の維持、継続的な改善を行っています。

### 2 | 食品安全 | 食品安全管理システム

HACCP※2管理を重要視した、国際規格であるFSSC22000※3で規定されている事項を基本とし、食物アレルギー監査※4などのノウハウを取り込み、衛生管理(食品安全のための前提条件プログラム)や、フードディフェンス※5の管理を、独自の内容で各生産工場の状況にあわせ、進化させて運用しています。

### 3 | 危機管理 | 商品回収システム・トレーサビリティシステム

ISO9001や食品安全管理システムで、品質トラブルの発生を未然に防ぐよう管理していますが、万が一、永谷園が提供した商品に重大な問題が発生した場合を想定して、早急に適切な対応が取れるように、商品回収管理規程を整備・運用しており、定期的に模擬訓練を実施しています。また、商品の生産・加工・流通の各段階において、原材料や包材の情報、商品の製造場所、販売先等の記録を残しており、商品の履歴情報を追跡できるようなシステムを構築しています。

※1 **NAFSAS(ナフサス)**：永谷園味ひとすじ食品安全保証システム(Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System)の頭文字をとったもの。

※2 **HACCP(ハセツプ、ハサツプ)**：工場を運営するうえで基本となる衛生管理(一般的衛生管理プログラム)を実行したうえで、各商品において原料の入荷から商品の出荷まで、製造工程ごとに予測される危害の分析を行い、その分析にもとづいて適切に管理する(危害分析)という衛生管理手法。

※3 **FSSC22000**：ISO22000と食品製造に関する一般的衛生管理の基準(ISO/TS22002-1)を組み合わせた食品安全システムの国際規格。

※4 **食物アレルギー監査**：食物アレルギー配慮商品を製造している、永谷園フーズ 岡山工場とオクトス工場において、食物アレルギー対策先進国である、カナダの権威のある機関より教育訓練を受けている、シーアンドエス(株)にご協力をいただいて、定期的に食物アレルギー配慮商品を製造するために、適した環境であるか、監査を実施し、高い評価を得ています。

※5 **フードディフェンス**：食品への意図的な異物や毒物などの混入や、汚染を防止する安全管理手法です。工場への入退出管理や、工場内で使用する洗剤や薬品などの、施錠管理・在庫管理を徹底しています。

# 食品安全

## 主な取組み

### ● 原料調達の特長な管理

永谷園は、長年の「経験」や「技術」をもとに商品開発に努めています。

70年以上親しまれている「お茶づけ海苔」などに使用している海苔は、1967年に全国の漁連の入札権を取得し、永谷園商品に合った品質の海苔を、自ら選んで直接買い付けています。食品メーカーでこの入札権を持っているのは、極めて珍しいことです。

また、同じく「お茶づけ海苔」に使用している抹茶は、国産の茶葉を使用し、お茶づけにした際に鮮やかな緑色で、風味豊かな品質のものを、科学的に確認するほか、購買担当者と品質管理担当者による人間の感覚（視覚・味覚・嗅覚・触覚など）を用いた「官能検査」で選定しています。



### ● 品質保証連絡会

永谷園では、商品の企画・生産・販売と、商品に携わる関連部門で構成する「品質保証連絡会」を開催し、商品の改善へと結びつける活動を行っています。日々寄せられるお客さまからの貴重なお申し出内容を、月単位で集計・分析・評価を行い、その内容に対する課題に取り組むだけでなく、食品安全に関する時事ニュースについても情報を共有し、企業としての対応方針を決定しています。同連絡会は、定期的に開催しており、取組み内容の進捗状況を随時確認しています。

### ● 正確かつ迅速な情報提供

永谷園 品質保証部では、社内外への商品情報の提供と管理を行っています。お客さまからのお問合せに、迅速かつ正確に回答するためのサポートや、お取引先さまへの商品情報の迅速な提供、社外で原材料に問題が生じた場合の自社商品への影響など、商品情報がいつでも素早く確認できるように、常に最新の状態で日々管理することで、顧客満足度向上の一端を担っています。

### ● ナフサス監査

永谷園 品質保証部による定期監査で、永谷園独自の食品安全ルールが遵守されているかを、工場ごとに評価しています。監査での指摘については、スケジュールに従って改善し、その後の状態を品質保証部で評価することで、継続的なレベルアップを図っています。定期監査では、現場確認だけでなく、2021年6月より本格施行されたHACCP制度化を含め、国内外の食品安全に関する動向を踏まえた食品安全管理システムの提案、システム構築のサポートも実施しています。

また、サプライヤー管理強化の一環として、原材料や資材の供給先工場に対しても、定期監査を行っており、国際的な食品安全規格の内容をもとに評価を実施しています。

### ● 有事対応力とお客さま視点の醸成に向けた勉強会

健康被害が発生した場合には、事故内容や改善状況など、正確な情報を適切なタイミングでお客さまにお伝えすることが重要です。そのため、事故が発生した場合に、工場ですべきことや、お客さまが必要とする情報とはこういったものか等を、各工場の従業員に定期的に教育することで、有事の際に全社一丸で対応できるように努めています。

また、日々お寄せいただくお客さまのご意見・ご感想のなかでも、励みとなるような温かいお声を従業員に直接届ける機会を設け、商品を選んでくださったお客さまの思いに触れられるような取組みも開始いたしました。これにより、従業員のモチベーション向上や商品の品質向上への意識醸成を図っています。

## 食品安全

当社グループは、法令遵守はもとより公正性・透明性を常に意識し、お取引先さまと協働で、人権・労働・環境などの社会的責任に配慮した調達活動の取組みを進めていきます。

### 永谷園グループの持続可能な調達方針

#### 1 | 法令、社会規範の遵守 |

法令、社会規範を遵守しお取引先さまと公正・公平・透明な関係を築き信頼される調達活動に努めます。

#### 2 | 地球環境への配慮 |

「永谷園グループ 環境基本方針」に準拠し、地球環境を配慮した調達活動を実施します。

#### 3 | 公平・公正な取引 |

品質、安全性、価格、技術力、安定供給、のみならずCSRへの取組み等を総合的に評価し、公正・透明なお取引先さまの選定を行います。

#### 4 | 人権・労働・安全衛生への配慮 |

国際的な人権に関する基準や考え方を尊重し、児童労働・強制労働を排除するとともに、労働環境や安全衛生に配慮した調達活動を推進します。

#### 5 | 情報セキュリティへの取組み |

調達活動にかかわる機密情報、個人情報、法令ならびに自社基準に従い、適正に管理します。

#### 6 | 社会・地域との共生 |

地域社会の一員として、お取引先さまとともに調達にかかわるリスクの低減に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

### 原材料に関する取組み

#### ● 原材料採用委員会

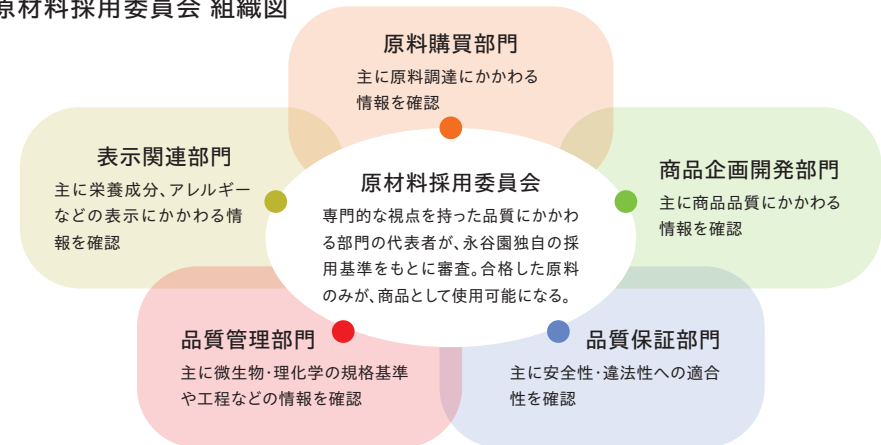
永谷園では、お客さまに安全・安心な商品をお届けするために、商品に使用する原料の安全性・遵法性を確認する部門横断型の原材料採用委員会を設けています。

原料は、安全性・遵法性の基準のほか、過去の経験を踏まえた永谷園独自の採用基準を設け、「原料規格書」やそれに付随する情報を、原材料採用委員会が専門的な視点で審査し、合格になった原料のみを使用します。

また、採用後の原料に対してもこの審査を定期的に行い、さらに、社会環境の変化や法令の改正、最新の知見等を踏まえて常にルールを見直すことで、より安全・安心な商品づくりに努めています。

これら原料情報は、データベース化されており、お客さまが必要とされる原料情報等を速やかに提供できる体制としています。

#### ◎ 原材料採用委員会 組織図



#### ● 原材料・商品の検査体制

検査を迅速に行うため、グループ会社を含めた各生産工場で「自主検査体制」を構築し、この自主検査の合否判定基準にもとづき、商品の安全性を確認しています。

また、永谷園 品質保証部 中央検査分析室では、安全・安心な商品づくりのため、原材料や各工場で生産された商品について、官能検査・理化学検査・微生物検査を行い、品質と安全性を日々確認しています。

#### ● 残留農薬検査・食物アレルギー検査

海外で契約栽培をしている農作物の残留農薬検査は、海外の製造メーカーと永谷園 品質保証部 中央検査分析室とでダブルチェックを行い、厳しい検査体制で安全性を確保しています。

食物アレルギー検査は、消費者庁が公定検査に指定している検査法（ELISA法）での検査に加え、検査の自動化や迅速化にも取り組んでいます。

さらには、食品のにおいの分析などの評価手法も導入しています。

## 多様なニーズに対応した商品開発

### 食物アレルギー配慮商品

永谷園では、食物アレルギーをお持ちの方でも「安心しておいしく召し上がっていただける食品を提供したい」という思いから、食物アレルギー配慮商品を発売しています。

なかでも「A-Label」シリーズは、「くるみ・小麦・そば・卵・乳・落花生」および「大豆」と、「香料・着色料」を使わない永谷園独自のブランドです。食物アレルギーの有無にかかわらず、同じ食事が楽しめる豊かな社会の実現を目指しています。



#### ● 生産工場での管理体制

食物アレルギー配慮商品において特に気をつけなければならないのが、コンタミネーション※です。アレルゲンとなる食材がほんの微量でも混入することがあってはならないため、原材料の調達から生産、さらにはライン洗浄に至るまで、その危険性を防止するための管理方法を確立し、通常の商品よりも厳しい条件で食物アレルギー配慮商品の生産を行っています。

※原材料としては使用していないにもかかわらず、ごく微量の特定原材料等やアレルギー物質が意図せずに商品に混入してしまうこと。

#### ● 工場での取組み

永谷園フーズ 船橋工場では、従業員全員が参加してアレルギー表示に関する法令や、他社の食品防御への取組みなど、食品安全の重要性を学ぶ教育を実施しています。



#### ● 協同の取組み

食物アレルギー配慮商品を持つ食品メーカー6社（エスエスケイフーズ(株)、オタフクソース(株)、ケンミン食品(株)、(株)永谷園、日本ハム(株)、ハウス食品(株)（五十音順））で、「食物アレルギーの有無にかかわらず、みんなで食事をおいしく楽しめる社会の実現」に貢献することを目的に「プロジェクトA」と名付けて、食物アレルギー配慮商品の普及・啓蒙活動を行っています。

食物アレルギーへの理解・関心を高めるため、副読本「知ろう！ 学ぼう！ 食物アレルギー～みんなでいっしょに楽しく食べよう～」を製作し、ご希望いただいた小学校に無料配布して、副読本を活用した出前授業を実施しています。

永谷園では、プロジェクトAの一員として、食物アレルギーの情報発信と啓蒙活動に取り組んでいます。

### 永谷園の長期保存食

永谷園では、災害時にも役に立つ「フリーズドライごはん」「エー・ラベル（A-Label）あたためなくてもおいしいカレー 5年保存」「リゾごはん」などの長期保存食を発売しています。

平時、非常時にかかわらず、どんな時でも「簡単に」「早く」「おいしく」食べることができる商品です。

特に、「リゾごはん」は、災害時に「水・熱源がなくてもおいしく食べられる」がコンセプトの商品です。本商品の発売により、防災担当者の「お困りごと」である「水の保管スペース確保」に対する課題解決につながりました。賞味期間は、8年と長期保存が可能です。災害時の備蓄だけでなく、アウトドアなどでもご活用いただけます。



「フリーズドライごはん」は2021年に、  
「リゾごはん」は2024年に「日本災害食認証※」を取得しました。

※災害食の内、災害時に役立つこと、および日常でも積極的に利用可能な加工食品について、日本災害食学会が示す日本災害食基準を満たしていることを学会が認めた食品をいう。（日本災害食学会「日本災害食 認証基準」より）



「SDGs・災害食大賞。2023」健康・アレルギー部門で最優秀賞を受賞

一般社団法人防災安全協会が主催する「SDGs・災害食大賞。2023」の「健康・アレルギー部門」で、「フリーズドライごはんわかめ味」が、最優秀賞を受賞しました。



## お客さまとのかかわり

当社グループでは、お客さまからのご意見を真摯に受け止め、エンゲージメントの向上につなげています。

お客さまとのコミュニケーションにより、より一層ニーズに合った商品やサービスの改善に役立てて、末永くご支持いただける商品づくりを目指します。

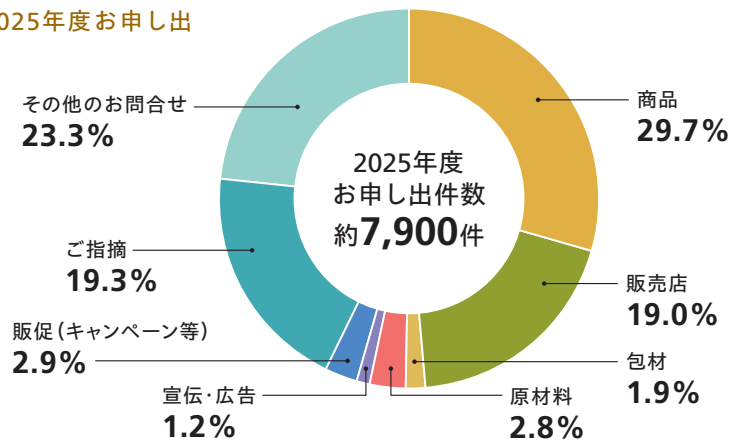
### ●「お客さまの声」を大切に

当社グループは、お客さまからの貴重なお申し出を、商品開発や改善に役立てたいと常に考えています。永谷園では、お客さまとのコミュニケーションの拠点として「お客様相談室」が窓口になり、いただいたお申し出に迅速かつ正確にお応えする体制を整えています。2025年度は年間で約7,900件のお問合せやご意見をいただきました。いただいたお申し出は、社内のデータベースに蓄積し、日々「お客さまの声」として、社長を含め社内に情報発信しています。

また、データを集計・分析して定期的に「品質保証連絡会」を開催し、開発部門や生産部門などで、よりよい商品づくりに反映できるような仕組みにしています。

今後も、お客さまに満足していただける商品を提供できるよう、一つひとつの「お客さまの声」を大切にしていきます。

### ◎ 2025年度お申し出



- お客さまからご提供いただいた個人情報は、個人情報に関する法令等を遵守し、管理・保護しています。
- 「お客さまの声」には、お客さまの個人情報は記載されません。

### ● 永谷園ホールディングス 展示室

本社1階に、当社グループの商品や歴史に触れていただける「永谷園展示室」を設置しています。

展示室では、江戸時代に煎茶の製法を開発し永谷園の「味ひとすじ」の原点となった永谷宗七郎(宗円)に始まり、「お茶づけ海苔」「松茸の味お吸いもの」など、これまで世の中になかった革新的な商品の誕生に挑戦した歴史をご紹介します。



また、ホームページでは、3Dで疑似体験できる「バーチャル展示室」を公開しています。永谷園の歴史を楽しみながら、体験していただくことができます。

バーチャル展示室 <https://www.nagatanien-hd.co.jp/company/exhibitionroom>

### ● 永谷園フーズ バーチャル工場見学

安全・安心への取り組みや生産現場の魅力を伝えるコンテンツとして、永谷園商品の生産工程を追う「バーチャル工場見学」を公開しています。永谷園商品ができるまでを動画でご紹介しています。

バーチャル工場見学 [https://www.nagatanien-foods.co.jp/factory\\_tour/](https://www.nagatanien-foods.co.jp/factory_tour/)

# 人権の尊重

## 人権への対応

### ● 人権方針の策定

永谷園グループ人権方針は、「永谷園グループ サステナビリティ方針」にもとづいた人権に関する方針として、当社グループすべての事業活動における基盤となるものです。当社グループは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響をおよぼす可能性があることを認識し、事業活動にかかわるすべての人の人権を尊重するために、「永谷園グループ人権方針」を定め、人権尊重の取組みを推進していきます。

### ● 人権推進の体制

人権尊重・人的資本の取組みは、サステナビリティ委員会人権部会を中心に、グループ各社の関係部署と連携して活動を進めています。具体的な取組み内容は、永谷園ホールディングスの社長が委員長であるサステナビリティ委員会に報告し、審議・検討しています。

### ● 人権尊重の啓蒙・理解促進

企業コンプライアンスの基本の一つである「人権尊重の啓蒙・理解促進」のため、従業員には「遵法週間による啓蒙」「eラーニング」「社内掲示板」のほか、ケーススタディを用いて具体的に注意すべき事項など、人権方針に関する理解促進を図っています。

### ● ヘルプラインとしての窓口設置

内部通報制度として、社内および社外に相談窓口を設置し、電話やメールなどで従業員がいつでも相談できる体制としています。また、従業員が窓口を利用しやすくするために、定期的な周知を行っています。

### ● 人権デュー・ディリジェンスの実行

#### 人権デュー・ディリジェンスとは

企業活動における人権リスクを抑える取組みのこと。

具体的には、自社の企業活動において、強制労働やハラスメント等の人権リスクや、人権に対する負の影響がないかを特定し、そのリスクを分析・評価して、適切な対策を策定・実施すること。

当社グループの事業活動によって、影響を受ける人々の人権尊重のため、国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則」にもとづき、以下の人権デュー・ディリジェンスのサイクルを実施していきます。

● 当社グループは、私たちの企業活動が直接的に、あるいは間接的に、人権におよぼす影響があることを理解し、企業活動による顕在的・潜在的な人権リスクを評価・把握し、未然に防止・軽減します。

● この人権と企業活動とのかかわりについて、役員・従業員が理解を深め、人権を尊重するよう、教育・啓蒙を継続的に実施していきます。また、人権にかかわる影響について、適切に把握し対応するため、関係するステークホルダーと積極的に対話と協議を行います。

# 人権方針

## 永谷園グループ人権方針

### 1. 基本的な考え方

社会の一員として、すべての事業活動における人権尊重の重要性を認識します。事業活動においては、人権に関するすべての法令を遵守し、「世界人権宣言」と国際人権規約である「市民的及び政治的権利に関する国際規約」「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、「労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関（ILO）の宣言」および、国際連合の「ビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）」などの国際的な規範や基本原則を尊重します。

### 2. 適用範囲

本方針を、永谷園グループのすべての役員と従業員に適用します。また、自社の製品・サービスに関係するすべての取引関係者に対しても、本方針を理解し、支持していただくことを期待します。

### 3. 人権尊重の責任

自らの事業活動にかかわるすべての人の人権を侵害しないことに努め、人権への負の影響が生じた場合は是正に向けて適切な対応をとることにより、人権尊重の責任を果たすサプライチェーンを築いていきます。

### 4. 人権デュー・ディリジェンス

人権デュー・ディリジェンスの仕組みを構築し、これを継続的に実施することで、企業活動による顕在的、潜在的な人権リスクを評価し、把握し、未然に防止し、軽減していきます。

### 5. 情報開示

自らの人権尊重の取組みの進捗状況を、ウェブサイトなどで継続的に開示します。

### 6. 対話・協議

本方針を実行する過程において、独立した外部の専門家からの助言を受け、ステークホルダーとの対話と協議を行っていきます。

### 7. 教育・研修

本方針がすべての事業活動に組み込まれ、効果的に実行されるよう、すべての役員および従業員に対して適切な教育・研修を行います。

### 8. 責任者

本方針の実行に責任を持つ担当役員を明確にし、実効性を担保します。

### 9. 人権における重点テーマ

働きがいのある企業グループの実現を目指し、ダイバーシティを尊重するとともに、永谷園グループ企業倫理綱要に定める以下の項目にもとづいて、人権遵守における重点テーマとして位置づけます。

#### ●労働安全衛生

職場の安全・衛生に関する法令・ルールとその運用状況を確認し、安全で健康的な職場環境を作ります。

#### ●差別・ハラスメント

個人の人権と多様性を尊重し、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、言語、障がい、社会的出身等を理由とするあらゆる差別およびハラスメントを排除して、公正な処遇がされる職場環境を作ります。

#### ●多様性

多様な個性を持つ、すべての人が率直に意見や行動を示せるよう、互いの考え方や立場を尊重し、自由闊達で風通しの良い職場風土の醸成に努めます。また、永谷園グループ内の活発なコミュニケーションを通して、一体感のある協調的な関係を構築します。

制定日：2023年4月1日

## 永谷園グループカスタマーハラスメント対応方針

永谷園グループ人権方針の推進にあたり、お客さまと従業員等の人権を共に尊重していくことを明確にするため、カスタマーハラスメント対応方針を制定しています。

### 永谷園グループ カスタマーハラスメント対応方針

### はじめに

永谷園グループ（以下、「当社グループ」といいます。）は、企業理念「味ひとすじ」の精神でお客さまに喜んでいただける商品を提供することを目指しています。その実現に向けて、当社グループの従業員等が安心して就業できる環境を確保することは必要不可欠であると考えています。当社グループは、引き続き、お客さまからのご意見・ご要望に真摯に対応してまいります。カスタマーハラスメントに該当する行為に対しては毅然とした姿勢で対応します。

### カスタマーハラスメントの定義

お客さまからのクレーム・言動のうち、当該クレーム・言動の内容の妥当性に照らして、当該要求を実現するための手段・態様が社会通念上不相当なものであって、当該手段・態様により、従業員等の就業環境が害されるものとします。

### 対象となる行為例

- 精神的な攻撃となる言動（脅迫、中傷、名誉毀損、侮辱、暴言）
- 威圧的な言動
- 継続的な（繰り返し）言動
- 拘束的な行為（不退去、居座り、監禁）

- 性的・差別的な言動
- 個人への攻撃、要求（要求内容の妥当性に照らして不相当とされる場合があるもの）
- 過剰な要求
- SNSやインターネットを利用した誹謗中傷、プライバシーの侵害行為

※上記は、厚生労働省が定める「カスタマーハラスメント対策企業マニュアル（厚生労働省）」に基づいています。

### カスタマーハラスメントへの対応

昨今、カスタマーハラスメントと呼ばれる迷惑行為が社会問題化しています。当社グループでは、カスタマーハラスメントについては、従業員等の人権および就業環境を著しく害するものと考え、組織的に毅然とした対応を行います。

- 当社グループでは、万一、従業員等がカスタマーハラスメントに該当する言動を受けたときには、抱え込まず、上長等に報告・相談することとし、カスタマーハラスメントに対して組織として対応します。
- 当社グループでは、従業員等に対して、カスタマーハラスメントに該当する行為があったと判断した場合、適宜商品・サービスの提供やお客様対応をお断りさせていただきます。
- 当社グループでは、当該行為が悪質と判断した場合には、しかるべき機関に相談のうえ適切かつ厳正に対処をさせていただきます。

※上記に限らず、「社会通念上を超える著しい迷惑行為」と見なされた場合同様の対応を行う可能性があります。

制定日：2026年7月1日

# 人材戦略

## 人的資本の拡充

当社グループは、国内・海外・中食と幅広い分野に事業活動を展開しています。

幅広い分野で多様な人材が、互いに尊重し合い、能力を発揮し活躍できる企業を目指し、社内環境の整備や企業風土の醸成に取り組んでいます。

その一環として、当社グループでは、さらなる人的資本の拡充を図るために、「人と組織の未来創造」に向けた5つの改革に取り組んでいます。

### ● 「人と組織の未来創造」に向けた5つの改革



### ● 従業員サーベイの導入

抜本的な人事制度改革を実現するために、2025年度より全従業員を対象とした定期的な従業員サーベイを実施しました。

従業員の声を大切にし、「評価制度、働きがい、キャリア形成、組織力、職場環境」など、多角的な視点から現状を正確に把握し、表面化していない課題や改善の機会を見つけ出します。

この従業員サーベイの結果と組織課題をもとに、5つの改革を実行し、より働きやすい職場環境の実現と人的資本の拡充に向けて取り組んでいます。

## 人材育成

### ● 人材育成方針

永谷園では、従業員一人ひとりが、個性や能力を最大限に発揮し、いきいきと働くことが企業の成長であり、企業価値の向上につながると考えています。

多様な人材の活躍につながる機会づくり、成長実感を持てるキャリアや学びの仕組みづくりを通し、従業員が互いに多様な価値観を尊重しあい、一人ひとりの成長意欲や個性・能力を最大限に発揮できる企業風土づくりを目指しています。

従業員の自主性・多様性を育てるため、「トレーナー・トレーニー制度」を導入しています。周りに相談しながら経験を増やし、職場の仲間同士が教え支え合うことで、「個」だけでなく「組織全体」で人材を育む取り組みを行っています。

時代の変化に即応し、会社とともに成長・進化できる人材育成を目指しています。

### ● 多様な人材の活躍に関する指標と目標

多様な人材のより一層の活躍を目指し、以下の目標を設定しました。

| 指標        | 女性管理職比率 | 男性の育児休業取得率 | 女性の育児休業取得率 |
|-----------|---------|------------|------------|
| 2030年度 目標 | 15%     | 50%以上      | 100%       |
| 2025年度 実績 | 7%      | 80%        | 100%       |

※対象は永谷園

なお、永谷園フーズおよびDAY TO LIFEについては、下記の厚生労働省「女性活躍企業データベース」にて、情報を開示しています。

永谷園フーズ ▶ <https://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/detail?id=36541>

DAY TO LIFE ▶ <https://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/positivedb/detail?id=10147>

## エンゲージメント

### D&I 多様な人材の活躍

#### 男女ともに活躍できる環境・次世代への取組み

##### ●えるぼし認定

女性活躍推進法にもとづき、女性の活躍に関する優良な企業として厚生労働大臣の認定を受けています。

永谷園は「えるぼし認定3つ星」を取得し、DAY TO LIFEは「プラチナえるぼし認定」を取得しています。



##### ●くるみん認定

次世代育成支援対策推進法にもとづき、従業員が男女ともに活躍でき、仕事と子育てを両立できる職場環境づくりの推進に関する優良な企業として厚生労働大臣の認定を受けています。

永谷園は「プラチナくるみん認定」を取得し、永谷園フーズは「くるみん認定」を取得しています。



#### 障がい者の雇用

##### ●特例子会社(DTL SOCIAL-DESIGN)の設立

**目指す姿** 障がいのある方が安定して働きやすいように配慮することを目的として、厚生労働大臣の認定を受けて永谷園グループ初の特例子会社を設立しました。グループ全体を横断的に支える存在へと成長し、事業としての収益貢献や多様な人材の活躍推進を通じて、当社グループの企業価値向上とコーポレートブランディングの強化に寄与していきます。

**会社設立に込めた想い** 社人には、社会的な価値として「よりよく生きる」を理念として実装していき、社会課題を創造的にとらえ、事業を通じて解決していきたいという強い意志が込められています。私たちは、新たな価値を生み出し、よりよい社会の実現に貢献する企業でありたいと考えています。

本取組みを通じて、当社グループの社会的責任を果たすとともに、企業としての信頼性とブランド力を一層高め、持続的な成長と競争力の強化につなげていきます。

### D&I 多様な人材の活躍の取組み

#### ●フレキシブルな働き方

永谷園では、「フレックスタイム制度」と育児・介護を事由とした「短時間勤務制度」や「在宅勤務制度」を併用することで柔軟な働き方を実現しています。

#### ●サポート休暇

自己啓発、介護、ボランティア、ファミリーケア、子育て支援等、複数事由から選択制で取得できる特別休暇です。

従業員が仕事と生活を両立させながら、いきいきと働き続けられる職場環境の実現に取り組んでいます。

#### ●部・サークル活動

従業員相互間および世代を超えたコミュニケーションの向上や、心身の健康増進を図り、より働きやすく楽しい職場にするための施策として、会社公認の部・サークル活動を推進しています。

#### ●服装自由化

従業員の個性や多様性を尊重するとともに、暑さ・寒さに応じた働きやすい職場環境づくりの一環として、ビジネスの場に相応しい範囲で自由な服装を認めています。

#### ●LGBTQの理解浸透(結婚の取扱い)

パートナーシップ宣言制度を利用した同性同士も「結婚」「婚姻関係」とみなし、法的婚姻と同様に社内の福利厚生の対象となるよう制度を改正して、定期的に社内周知を図っています。



#### ●ダイバーシティ推進への取組み(永谷園フーズ)

永谷園フーズでは、「女性活躍推進」を重要な経営課題の一つに挙げており、女性活躍推進研修を実施しています。



**働き方** <https://www.nagatanien.co.jp/company/diversity.html>

※対象：永谷園ホールディングス・永谷園

## 健康経営

従業員が、健康で明るくアグレッシブに活躍するために、従業員の健康保持・増進に積極的に取り組み、一人ひとりの健康状態をより「良好」に近づけるとともに、安全な労働環境を維持増進することで、事業を継続的、安定的に発展させていくことを目指します。

### ● 安全衛生委員会

毎月開催している安全衛生委員会の活動で、従業員が安全安心かつ健康に働けることを目指して、産業医による社内巡視や、定期的なAED講習会等、様々な取り組みを実施しています。



▲ サニーフーズ 栃木工場



▲ 永谷園フーズ サンフレックス工場



▲ 永谷園フーズ 松本工場



▲ 喜多方らーめん本舗



▲ 永谷園フーズ オクトス工場



▲ 永谷園フーズ 岡山工場

### ● 熱中症対策

国内の各工場では、従業員の体調管理を最優先に熱中症対策を実施しています。



▲ サニーフーズ 栃木工場

高温作業に従事している作業員に「冷却ベスト」を導入



▲ 藤原製麺

体感だけでなく目と耳で危険を察知できる「熱中症指数計」と「冷却ベスト」を導入



### 健康経営および労働安全衛生の取り組み

#### ● 健康相談窓口(からだ・こころ)

産業医やカウンセラー(臨床心理士)による健康相談窓口を、毎月開いています。従業員に寄り添った対応で、従業員も気軽に相談でき、心身の健康維持に努めています。

#### ● 永谷園ファミリーサポート24

24時間365日受け付けている外部相談窓口で、心身の健康、育児、介護、医療機関の案内等、幅広い相談ができます。

#### ● ストレスチェックによる組織分析・サポート体制づくり

年に1度のストレスチェック結果をもとに、外部委託による集団分析をしています。

一般企業の平均や、組織間比較等により、未然にリスク要因を分析しています。

また、自身の心身の健康状態を定期的に上司に伝えるセルフチェックを通じて、上司が部下の健康面に対して声かけをしやすい環境を整える等、従業員がより働きやすい職場になるよう努めています。

## 地域社会との取り組み

当社グループは、様々な社会の課題に対して、食を通じた活動に取組み、持続可能な「幸せで豊かな社会づくり」に貢献しています。

### ● フードバンク活動への支援

永谷園ホールディングスでは、生産から出荷、流通に至るまでの自社のバリューチェーンで、様々な要因で市場に流通できない商品を、福祉施設などに無償提供する「フードバンク」に寄贈しています。



特定非営利活動法人  
セカンドハーベスト・ジャパン

<https://2hj.org/activity/>

### ● ひとり親家庭への支援

永谷園ホールディングスは、「**認定NPO法人 おてらおやつクラブ**」に、商品を寄贈しています。同法人は、全国の寺院や支援団体の協力のもと、様々な事情で困りごとを抱えるご家庭へ、お寺に寄贈される食品や日用品などをお届けし、貧困問題の解決に寄与する目的で活動を行っています。



### ● 子どもの食 応援ボックスへの支援

永谷園ホールディングスは、国際NGOセーブ・ザ・チルドレンが実施している「**子どもの食 応援ボックス**」に商品を寄贈しています。

「子どもの食 応援ボックス」は、経済的に困難な状況にあるご家庭の子どもたちの「食」の状況改善を目的としています。

セーブ・ザ・チルドレンでは、子どもたちの健全な成長などに寄与すべく、子どもの貧困問題解決に取り組んでいます。



©Save the Children

### ● 災害被災地への支援

永谷園ホールディングスは、「**緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」**」を通じて、2024年に発生した東北地方豪雨(山形県・秋田県)や、能登半島豪雨(石川県)の被災地へ支援物資を提供しました。

「SEMA」は、民間企業と市民団体が連携して、日本国内の災害支援を行うための仕組みで、大規模な自然災害の発生時に、支援の届かない被災地などへ、必要な物資・サービスを迅速に提供しています。

本活動に協力し災害発生時に一刻も早く、ひとりでも多くの被災者の方々に支援していきます。



## 地域社会との取り組み

### 知的障がい児者スポーツへの支援

永谷園ホールディングスは、「一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会」のオフィシャルサプライヤーとして、商品を通じた支援活動を行っています。

同協会は、知的障がい児者が運動やスポーツを行える環境整備のほか、啓発活動を展開して、重度や重複障がいのある方々のスポーツ参加を支援することを目的に活動をしています。



### MINATOシティハーフマラソンへの支援

永谷園ホールディングスは、東京都港区で開催している「MINATOシティハーフマラソン」に支援協力しています。

本大会は、「生涯スポーツの振興」や「地域福祉活動の増進」を目的としており、子どもから高齢者まで、国籍や障がいの区別なく、多くの区民等が参加できるスポーツを通じた「地域共生社会の実現」を目指しています。



### アルミ缶で支援活動

永谷園フーズ 岡山御津工場では、岡山県立誕生寺支援学校が作業学習で取組んでいる空き缶のリサイクル活動に協働して、工場内で集められたアルミ缶を提供しています。

### 美化活動

永谷園グループでは、環境保全活動の一環として、定期的に周辺地域の清掃活動や美化活動に取り組んでいます。清掃を通じたコミュニティの活性化により、快適な地域環境の維持向上、景観保全にグループ全体で推進していきます。



▲永谷園 新虎通りゴミゼロ活動



▲永谷園フーズ 岡山工場 スポGOMIワールドカップ



▲永谷園フーズ 岡山工場 清掃活動



▲永谷園フーズ 船橋工場 清掃活動

### R-LOOP

永谷園ホールディングスでは、ブックオフコーポレーション(株)と(株)BPLabで共同展開している「資源循環プラットフォーム」の取組みに賛同し、「R-LOOP」BOXを設置しました。「R-LOOP」は、衣料品や雑貨を回収し、リユースとリサイクルで「すてない循環」をつなぐ取組みです。環境を守るだけでなく、リデュース・リユース・リサイクル(3R)で、「モノを大切にする」思いやりの活動を推進しています。



## 次世代育成への取り組み

当社グループは、次世代を担う子どもたちに、食と健康・ものづくりの楽しさを学べる、体験を通じた教育支援活動で、社会課題の解決に貢献していきます。

### ● 食育授業

#### ■ 永谷園ホールディングス

小学校高学年を中心に「食育授業」を実施しています。

授業では「朝ごはんの大切さ」を学び、朝ごはんを食べる「オリジナル茶づけ」を作ります。

「オリジナル茶づけ」は、好きな具材を選び、商品名を考え、袋のデザインを描くなど、自分だけのお茶づけです。

同授業は、複数の学校で実施しています。これからも、楽しみながら学べる食育活動に取り組んでいきます。



▲青森県八戸市立江陽小学校での食育授業



▲青森県八戸市立江陽小学校の「オリジナル茶づけ」

#### ■ 永谷園

保育園や小学校を対象に、朝ごはんの大切さを伝えることで、健康的な食生活を育むための食育教室を実施しました。

### ● 教材配布

#### ■ 永谷園

全国47都道府県の小学校の低学年(1～2年生)を対象に、学級活動や生活指導などに幅広く活用いただけるスライド資料や冊子などを提供しています。

資料のテーマは「朝ごはんの大切さ」と「朝に適切な食事」で、各校の教職員の指導方法に沿ってクイズやワークで学べる内容になっています。



▲あさごはん 4つのスイッチ

### ● キャリア教育

#### ■ 永谷園ホールディングス

大阪府摂津市立第二中学校で実施している職業体験プログラムに参加しています。

同プログラムは、当校が取組むキャリア教育の一環で「企業や団体のサポートのもと、他者と協力して課題解決に取り組むことで、行動や体験を通して自己理解を深め、将来に向けた思考力を育成すること」を目的としています。

永谷園ホールディングスでは、これからも創造的思考の育成につながるキャリア教育活動に協力していきます。



▲大阪府摂津市立第二中学校

#### ■ 永谷園フーズ オクトス工場

三重県松坂市立中部中学校では、様々な職種の企業からの談話で、仕事の楽しさや社会とのかかわりを学ぶことで、職業観を育むことを目的としたキャリア教育を実施しています。

本校より地元企業に活動への協力依頼があり、永谷園フーズ オクトス工場の社員も講師として参加しました。

これからも地域と連携した教育活動に協力していきます。

#### ■ DAY TO LIFE

大学生のキャリア形成支援と従業員教育の一貫として、「産学連携インターンシップ」を実施しています。リアルな職場体験を通じて、個々の力を最大限に引き出す「人財育成」と「自律的なキャリア形成支援」に努め、参加した学生や従業員が、将来のキャリアを前向きに考え、企業と向き合い、成長していくための取り組みを行っています。

## 次世代育成への取り組み

### ● 職場体験

#### ■ 藤原製麺

藤原製麺では、地元である北海道旭川市内の中学校の職場体験学習を受け入れています。

職場体験では、原料の配合から製麺までの流れを動画で視聴し、作業着の着衣体験やラーメンづくりを通して、ものづくりの楽しさを学んでもらいました。

これからも次世代の学生に向けた学びの機会を提供していきます。



### ● 工場見学

#### ■ 永谷園フーズ

子どもの頃から食品が作られる現場を見て、ものづくりの楽しさを見て・体験することで、食への興味を育んでほしいという思いから工場見学を受け入れています。



▲永谷園フーズ オクトス工場



▲永谷園フーズ 岡山工場

### ● 企業訪問

#### ■ 永谷園ホールディングス

キャリア教育の一環で、学校からのご要望をいただいた中高校生の企業訪問を受け入れています。

仕事や働くことを身近に感じてもらうことで、将来の進路選択時の参考となるようキャリア教育活動に協力しています。



## コーポレート・ガバナンス

### ● 企業統治の体制

永谷園ホールディングスは、戦略策定・業務監督機能と業務執行機能との分離を明確にするために「執行役員制度」を導入しています。また、経営のチェック機能は、従来から監査役制度を採用しており、監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、当社の業務や財産状況の調査はもとより、子会社の調査も実施しています。

### ● 内部統制システムの整備・運用の状況

永谷園ホールディングスは、取締役の職務の執行が、法令および定款に適合すること、その他当社グループの業務の適正を確保するための体制整備に取り組んでいます。各取締役は、内部統制の仕組みを構築し、その有効性を定期的に評価・確保する責務を負っており、各監査役がその監視を行っています。内部監査部門は、定期的に各社・各部門で内部監査を実施した結果を取締役社長と監査役に報告し、相互の連携を図っています。これらの統制活動を通して、監査役および内部監査部門は、内部統制システムの構築状況および運用状況の妥当性を確認し、必要に応じて具体的な対策を取締役社長に提案し、取締役会に報告しています。

### ● グループ会社の業務の適正を確保するための体制

永谷園ホールディングスの内部監査部門は、グループ会社の業務執行状況を調査するため、定期的に内部監査を実施し、監査結果にもとづいた助言・指導を行うとともに、取締役会へ結果の報告を行っています。また、グループ会社の経営に関する重要な事項については、当社による事前承認、または事後報告を義務付ける仕組みを明確化することで、グループガバナンスを強化し、各社の業務の適正の確保に努めています。

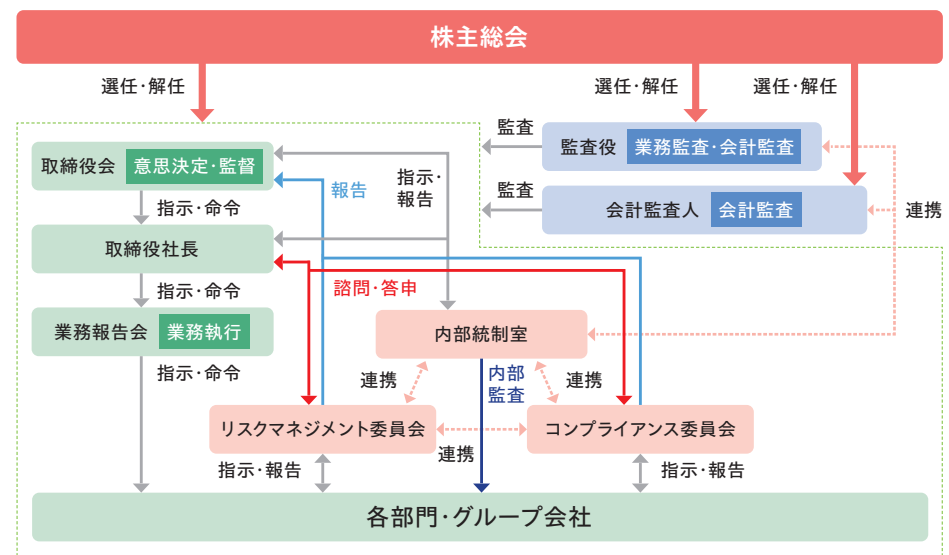
### ● コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会は、企業倫理および遵法精神にもとづく企業行動を徹底するため、重要方針の審議やグループ内への教育、各種施策の立案・実施を推進しています。また、コンプライアンスに関する疑義や違反事項への対処を適切に審議することで、体制の継続的かつ効果的な維持を図るとともに、社内・社外に相談および内部通報窓口を設置し、グループ全体で健全な経営を維持する仕組みを整えています。

### ● リスクマネジメント委員会

リスクマネジメント委員会では、当社グループにおけるリスクを網羅的に洗い出し、特に重点的に取り組む必要があると判断されたリスクを、取締役社長へ報告し、リスク低減策の検討およびリスク発生防止のための事前対策を図っています。

### ◎ コーポレート・ガバナンス体制



## コーポレート・ガバナンス

### 取締役会の概要および活動状況

取締役会は、6名の取締役で構成し、月1回の定期開催に加え、必要に応じて迅速に開催し、決定事項のほか、特に重要な業務執行に関する事項について、取締役会規程にもとづき決議しています。また、取締役会では、取締役および監査役が、各々の専門的知見や幅広い経験にもとづき、活発な議論を行うとともに、弁護士、会計士等の意見も踏まえ慎重に審議しています。

加えて、経営の円滑な意思決定機能を強化するため、各部門長から取締役に對して、業務の執行状況を報告するための業務報告会を定期的に実施し、さらに、随時各部門長が、企画提案および情報提供を行うための会議を開催しています。

### 災害リスクへの対応

永谷園ホールディングスでは、企業理念である「味ひとすじ」のもと、各部門における果たすべき役割を定め「発生段階別事業継続計画」の骨子を作成し、対応内容を明確化しています。また、様々な災害を想定した初動対応訓練を実施し、有事の際の対応力向上を図っています。

災害リスクへの対応についてはその検討に終わりが無い課題としてとらえ、周囲の環境等の変化にあわせ、具体的な対応内容を更新し精度を高め続けていきます。

### 監査役の概要および活動状況

監査役の主な決議事項は、監査方針および監査計画ならびに職務分担（取締役会へ報告）、監査報告書、会計監査人の選任、会計監査人の監査報酬に関する同意等となっています。

主な活動状況としては、取締役および執行役員へのヒアリング、株主総会および取締役会への出席、重要な会議への出席または関与、重要な決裁書類等の閲覧、グループ会社事業所への往査および結果報告、グループ会社監査役との連携および往査、会計監査人との連携、内部監査部門との連携を行っています。

### お問い合わせ先

株式会社永谷園 CSR推進室

[https://reg31.smp.ne.jp/regist/switch/00051c0007aiHglx29/InquiryForm\\_01](https://reg31.smp.ne.jp/regist/switch/00051c0007aiHglx29/InquiryForm_01)